

# 議員定数 2人削減

## 18人から 16人に



平成20年第2回定例会は6月4日から17日まで、会期14日間で開催されました。今回の定例会では、専決処分の承認、「瑞穂町営住宅条例」の改正など、合わせて12件の町長提出議案と、「瑞穂町議会議員定数条例」の改正など2件の議員提出議案を審議し、すべて原案どおり可決しました。



議員定数議案に対する起立採決の様子(本会議)

町議会の議員定数を2人削減し、16人とす  
るための議案を議員提出議案として提出し、  
賛成多数で可決しました。

これは、次の改選期から適用されます。

各議員の賛否は7ページに記載

この議員定数削減については、3月に行われた議会活性化特別委員会において、定数削減を行うことを可決し、4月の委員会において、具体的な削減数を審査しました。削減数について委員からは、議会機能の問題や経費削減を含め様々な意見がありました。同委員会では、各委員から示された案(削減数5人、4人、3人、2人、削減なし)に基づき順次採決を行い、その結果、「2人削減」を賛成多数で可決しました。

### 3月・4月に行われた 議会活性化特別委員会での主な意見(抜粋)

- ・住民から削減するべきであるとの声が多く、なぜ行動が起こせないのかとの声もある。
- ・多くの住民の声を町政に反映していくことを考えると、定数削減は本末転倒である。
- ・定数を削減する前に、報酬、政務調査費、管外視察経費などを削減すべきである。
- ・削減したとしても、議員一人当たりの住民数は近隣市に比べてもまだ少く、議員一人一人の資質向上や活動の場を増やすなどすれば、住民の声を町政に反映できる。
- ・2～3人削減したとしても、議員一人当たりの住民数は2,200人前後であり、近隣市が3,000人を超えていることを考えてもまだ少なく、議員の資質向上や活動の場を増やすなどすれば、住民の声を町政に反映できる。

なお、この議案に対し、大坪議員、谷議員から反対討論が、森議員から賛成討論がありました。

#### 賛成

森 巨議員

議員定数が18人となつてから49年、人口は約3倍に増加しているが、調査に必要な情報収集能力は当時とは比較にならないほど向上している。また、社会保障費の財源不足が深刻化している現在、制度改正や補助金の見直しなど、避けては通れない問題が控えており、今後起こりえるであろう住民生活への影響を鑑みれば、自ら先んじて痛みを受け、切磋琢磨することが、議員の姿勢であると確信する。

#### 反対

谷 四男美議員  
大坪 国広議員

議員の仕事は、日々の住民の生活を守る為に活動することであり、町民の意思をどのように行政へつないでいくかという役割を担っている。町民から求められているのは、議員の数よりも議員の質をいかに高め、議会本来の役割であるチェック機能が発揮されているかである。議会が努力する方向は、議員定数を減らして町民とのパイプを細くすることではなく、町民の願いが届く「町民が主人公の町政」を作るために全力をつくす事である。